

## 平成17年度病虫害発生予察 予報第8号

長崎県病虫害防除所長

【気象（平成17年11月11日発表 1か月予報 福岡管区气象台）】  
 九州北部地方では、天気は数日の周期で変わってでしょう。  
 向こう1か月の気温、降水量、日照時間はいずれも平年並でしょう。  
 週別の気温は、1週目、2週目、3～4週目はいずれも平年並でしょう。

要素	要素別確率		
	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	50	20
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

\* 予報対象地域：九州北部地域

### 【予報の概要】

向こう1か月間における主な病虫害の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
トマト	黄化葉巻病 コナジラミ類 ハモグリバエ類	並(前年比) 並 やや少	並(前年比) 並 やや少
きゅうり	うどんこ病 褐斑病 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	並 やや多 やや少 並	並 やや多 やや少 並
キャベツ	コナガ ウワバ類	並 やや多	並 やや多
にんじん	うどんこ病 黒葉枯病	多 やや少	多 やや少
いちご	炭疽病 うどんこ病 萎黄病(防除情報第15号) アブラムシ類 ハダニ類 ハスモンヨトウ	多 やや少 やや多 やや少 やや少 並	多 やや少 やや多 やや少 やや少 並
かんきつ	ミカンハダニ	やや少	やや少

【トマト】 ( )内は平年値 (以下同じ)

#### 1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 並(前年比)

(2) 予報の根拠

ア 11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病は認められなかった(前年の発病

株率 0.1%、前年の発生圃場率 8.3%)。

イ 11月の発生状況調査(農業改良普及センター、JA、市町、病害虫防除所調査)では、県内各地で本病の発生が認められた。

(3) 防除上注意すべき事項

ア シルバーリーフコナジラミおよびタバココナジラミの新系統が本病を媒介するので、これらコナジラミ類の侵入防止に努める。

イ 하우스内の発病株はハウス外に持ち出し、適正処分し、ハウス内での蔓延を防止する。

ウ 訪花昆虫(ハチ)を使用するハウスでは、コナジラミ防除薬剤の選択に注意し、ハチに影響の少ない薬剤を使用する。

2. コナジラミ類(シルバーリーフコナジラミ、タバココナジラミ、ワシツコナジラミ)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.0%(1.7%)、発生圃場率は25.0%(21.9%)であった。

3. ハモグリバエ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、被害葉率は3.3%(8.0%)、発生圃場率は50.0%(75.0%)であった。

【きゅうり】

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発病葉率は6.2%(6.0%)、発生圃場率は63.6%(42.4%)であった。

2. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発病葉率は1.2%(0.0%)、発生圃場率は18.2%(3.5%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生が多くなってからの防除は困難なので、早期防除に努める。

イ 薬剤は葉裏までかかるように十分散布する。

ウ 薬剤防除の際は系統の異なる薬剤を輪番施用する。

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発生は認められなかった(寄生株率0.3%、発生圃場率7.7%)であった。

4. コナジラミ類(シルバーリーフコナジラミ、ワシツコナジラミ)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(11筆)の結果、寄生葉率は0.9%(1.9%)、発生

圃場率は36.4%(33.6%)であった。

【キャベツ】 キャベツの( )は平成11～16年の6ヶ年の平均値

1. コナガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は2.7%(2.6%)、発生圃場率は33.3%(22.9%)であった。

2. ウワバ類(夕芥<sup>ソウカイ</sup>、イタチ<sup>ソウカイ</sup>)

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.0%(0.1%)、発生圃場率は25.0%(2.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 老齢幼虫の食害は大きいので、早期発見に努める。

イ 幼虫は中葉や下葉の葉うらにひそんでいるので、薬剤が十分にかかるようにする。

【にんじん】 にんじんの( )は平成7年及び11～16年の7ヶ年の平均値

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(9筆)の結果、発病株率は25.0%(1.7%)、発生圃場率56.0%(6.6%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病が進んでからでは防除が難しいので、発生初期からの防除に努める。

イ 薬剤散布に当たっては、薬剤が下葉にも十分付着するように散布する。

ウ 排水がよく乾燥しやすい圃場、早播きや多肥栽培によって生育が進み茎葉が繁茂した圃場では、多発しやすいので特に注意する。

2. 黒葉枯病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(9筆)の結果、発生は認めなかった(発病株率1.2%、発生圃場率8.9%)。

【いちご】

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

ア 11月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は25.9%(1.8%)であった。

イ 病害虫防除員の調査結果では、本圃定植直後から発生が続いており、一部で多発圃場が確認されている。

ウ 昨年県内各地で本病が多発しており、1番果収穫時期を迎える12月には株に負担がかかるため、さらに枯死株が発生すると予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病および枯死した株は感染源となるので速やかに圃場外に持ち出し、圃場周辺に放置しない。

イ 本圃で使用できる薬剤は少ない。防除の際は使用基準を遵守する。

ウ 多発圃場では、次年度の定植前に土壌消毒を必ず行う。その際は、植物体残さ(特に、葉柄、クラウン等)中で炭疽病菌が長期間残存するので、これらを除去する。

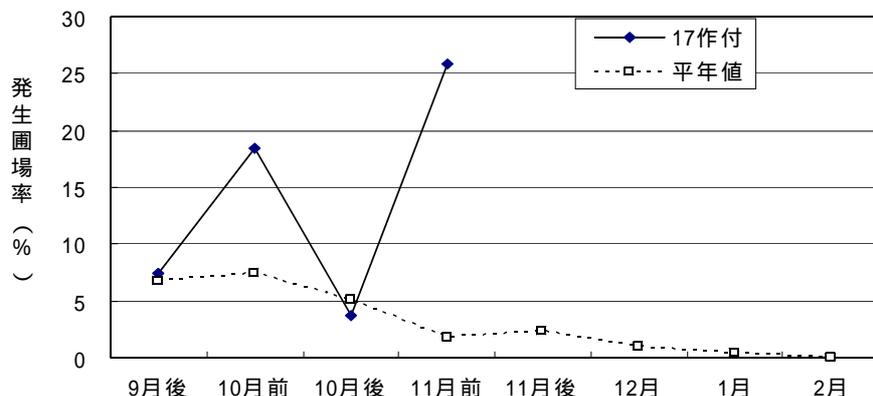


図 炭そ病発生圃場率の推移(巡回調査)

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.1%(0.4%)、発生圃場率3.7%(6.7%)であった。

3. 萎黄病

平成17年度病害虫発生予察 防除情報第15号による。

4. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.5%(2.2%)、発生圃場率は7.4%(21.3%)であった。

5. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.4%(3.1%)、発生圃場率は11.1%(13.6%)であった。

6. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、被害株率は4.5%(8.5%)、発生圃場率は55.6%(66.7%)であった。

【かんきつ】

ミカンハダニ

( 1 ) 予報内容

発生程度 やや少

( 2 ) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査の結果、寄生葉率は6.2% ( 11.9% )、発生圃場数率は51.3% ( 56.3% )であった。

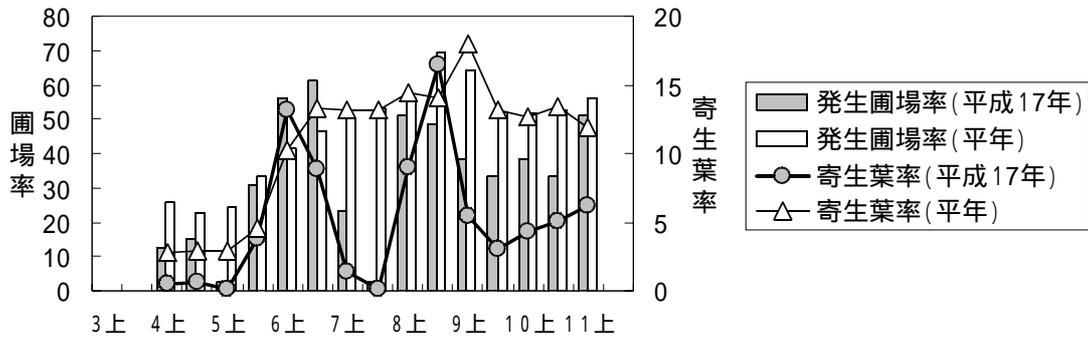


図 巡回調査におけるミカンハダニの発生状況